

【事務事業調査】

事務事業名	学校給食町内産利用拡大事業費	予算科目コード	会計-款-項-目-事業 001-10-05-03-003-01-01-0
担当部課	教育部 こどもみらい課	担当係長	給食センター 糸井 鉄夫
		事業の分類	既存事業

■事務事業の概要

	何をどのような方法で実施します(実施しました)か?	どのような成果が現れます(現れました)か?
計画	<p>H23 事後評価</p> <p>町内産の農産物を用いたメニューを積極的に導入し、地産地消の推進を図るとともに、学校栄養士による学校での食指導の実施や、「学校給食だより」で保護者に向けた地産地消メニューを紹介するなど、食育に関する啓発活動を行いました。H23の給食は197回実施し、うち米飯給食は137回、パン給食は60回でした。</p> <p>H25 事前評価</p> <p>1. 「地産地消メニューの日」の継続実施、地場産物を活用した郷土料理や行事食を給食メニューに活用するなど、給食メニューへの地場農産物活用促進を図ります。 2. 献立表に町内農産物をわかりやすく表示したり、給食だより等を活用し生産者の紹介、給食メニューを町ホームページに掲載など、情報の発信を実施します。また、学校栄養士による食指導を実施し、食の重要性などの指導を図ります。 3. 食の安全性を担保するため、関係機関と連携して情報の収集を図ります。</p>	<p>学校給食での地場産物の活用は、農業者には、「安心・安全で新鮮な食材を提供する」という意識が生まれ、生産意欲の向上に繋がります。児童・生徒には、食を大切にする心や郷土を愛する心が醸成されます。また、保護者の食への関心も高まります。</p>
実績		

■活動指標

指標	目標値	達成値	特記事項
学校給食における町内農畜産物の利用割合	65.0%		給食に利用している地元農産物の品目数 H23 町内産野菜穀類使用品目と使用料 36品目 61.1% 前年度より、町内農畜産物の使用量を増やしていきます。

■事業費(計画)

【単位:千円】

細 節	金 額	積 算 根 拠
1	133,759	小学生分 @4,200 × 1,610人×11月= 74,382,000
		小教職員 @4,200 × 150人×11月= 6,930,000
2		中学校分 @5,000 × 820人×11月= 45,100,000
		中教職員 @5,000 × 75人×11月= 4,125,000
3		教委分 @4,200 × 30人×11月= 1,386,000
		給食センター分 @4,200 × 28人×11月= 1,293,600
4		ひよこスタッフ @5,000 × 5人×11月= 275,000
		給食会等分 300食 × @250 = 75,000
5		検食分 @4,200 × 7施設×11月= 323,400
		検食分 @5,000 × 2施設×11月= 110,000
6		保存職分 @4,200 × 7施設×11月= 323,400
		保存職分 @5,000 × 2施設×11月= 110,000
7		中学3年3月分半額 @ 2,500×270人 = △675,000
8		
	133,759	

■事業費(実績)

【単位:千円】

細 節	金 額	特 記 事 項
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
	0	

■事業経費

		計 画 【千円】	実 績 【千円】	特 記 事 項
予 算	当初予算額	133,759		
	補正予算額			
	流用額			
	予算現額			
決 算	決算額			
財 源	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	受益者負担金	132,698		
	その他の特定財源			
	計	132,698		
	差引(一般財源)	1,061		